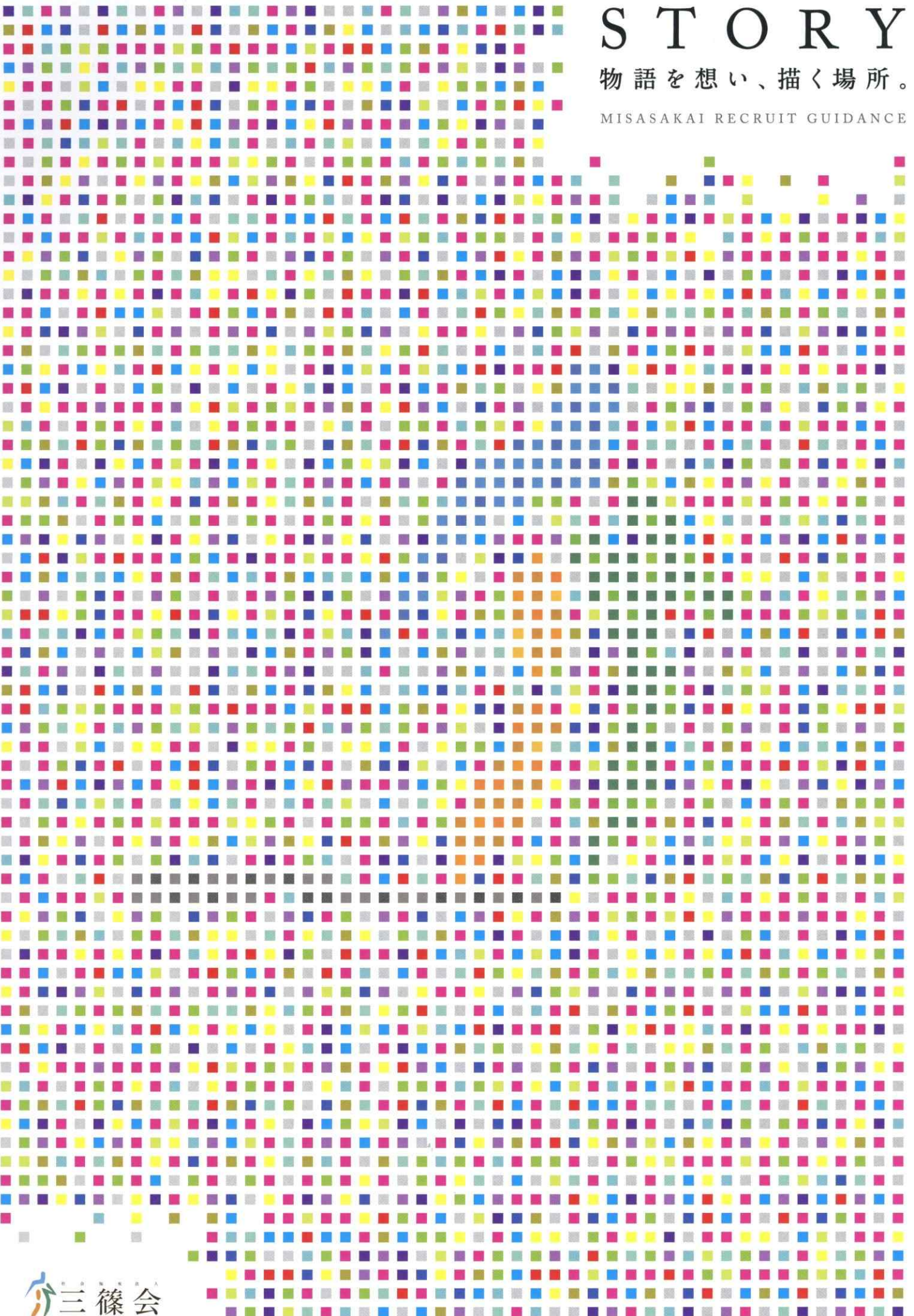


# STORY

物語を想い、描く場所。

MISASAKAI RECRUIT GUIDANCE



人生 = 物語

# STORY

すべての人に大切な物語がある。

どんな人にも積み重ねてきた思い出があり

それは物語に例えることができます。

ひとつの命にひとつの物語。

三篠会の仕事は、誰かの物語の続きを

一緒に作っていくことだと考えています。

ひとり一人に寄りそって、

心を響き合わせる日々は

きっとあなたの物語を豊かに彩ります。



# ケアスタッフ

知識がないまま飛び込んだ介護の仕事。  
やりがいを感じながら資格取得に挑戦中。

私は自分が介護士になるなんて、思ってもいませんでした。ところが就職活動中、合同説明会で三篠会の話聞いて興味を持ちました。保育園から特別養護老人ホームまで幅広い施設があり、就労支援の一環でパンを製造するなど、多彩な活動に驚いたんです。「ここなら自分の可能性を広げられる」と感じました。介護の知識がないまま入社しましたが、仕事で苦労した記憶はほとんどありません。研修がしっかりしていますし、先輩たちが私の状況を見て「移乗の時は、こうすればやりやすいよ」など、適切にアドバイスしてくれたので、すんなり仕事を覚えられました。

現在はリアライブ高陽で、ご利用者一人ずつの要望に合わせるユニットケアに取り組んでいます。その日の気持ちに寄り添って食事や入浴の時間が変わるので、毎日のスケジュールは流動的になりますが、明るい笑顔が増えて手応えを感じています。入社4年目となり受験資格を満たしたので、介護福祉士試験の勉強もしています。資格取得が目的ですが、勉強を通じて学んだ知識を仕事に生かしています。

早稲田 栞 Waseda Shiori

リアライブ高陽 勤務  
2015年入職 比治山大学短期大学部 総合デザイン学科卒

WORK STORY



コミュニケーションを  
なにより大切に。

介護で大切なことは、ご利用者とのコミュニケーション。特に、相手の話をたくさん聞くことが大切だと気づきました。どんなことが好きなのか、今興味を持っていることは何なのか。それを知っているだけで、話しかける話題が変わり、笑顔を引き出すことができます。



施設内にあるカフェや  
カラオケに行くことも。

リアライブ高陽は施設内に露天風呂やカフェ、カラオケ、映画館などがあり、地域住民の方との交流も盛んです。ご利用者が希望されれば、ユニットケアの一環としてカフェやカラオケに行くこともあります。多彩な設備は、ご利用者のよい気分転換になっています。

ある日のスケジュール

9:00 > 10:00 > 12:00 > 13:00 > 14:00 > 15:00 > 15:30 > 16:00 > 17:00 > 18:00  
朝のお茶の時間 入浴 準備・介助 休憩 排泄ケア おやつ 業務記録 コミュニケーション 夕食準備・介助 退社

いろいろな話をしています。

みなさんお風呂は大好きです。ゆっくりと入浴いただくことを心がけています。

ドーナツやまんじゅうなど、あたたかめからお出ししています。

日々の記録はiPadで入力するのでスムーズ。データは電子記録システムで管理しているので、ご利用者の状態などタイムリーに共有できます。

ご利用者の気持ちにより添っていろいろなことをしています。

ある日のスケジュール

9:00 > 10:00 > 11:30 > 12:30 > 13:15 > 16:15 > 16:30 > 17:30 > 18:00  
出勤・朝礼・申し送り 日中活動援助 居室へ誘導・昼食援助・支援 休憩 調理実習 休憩 夜勤スタッフへの申し送り 夕食・夕食援助・支援 退社

活動中に利用者さんが施設から飛び出した!!活動よりも外で遊ぶことが好きな利用者さんが多いです。職員も後を追い一緒に散歩して帰ることもあります。

今日はシュークリームを作りました。お昼ごはんに定食など色々な料理を作って、在宅復帰を目指すために頑張っています。調味料を入れ間違えたり、調理行程を間違えたりと様々なアクシデントがありますが、次への意欲につなげてがんばっています。



ご利用者同士の  
気づかひに感動。

私が気づいていない状態の変化を、「あの人が今大変そうですね」と別のご利用者が伝えてくれることがあります。また「あの人が、こんなことができるんですね」と教えてくれることもありました。そんなご利用者同士の気づかひの心に触れると、私の心もあたたかくなります。



後輩を指導する中で  
自分自身を振り返る。

年数が経つにつれて、私も後輩たちを指導することが多くなってきました。指導することで、逆に自分自身の理解が足りないところに気づかされることもあります。学んできたことを振り返り、不足している知識や、あいまいな点を確認できるので、自分も成長できていると感じています。

WORK STORY

# 支援スタッフ

ご利用者が本当に伝えたいことは  
何かを感じ取る。

私は支援スタッフとして、ご利用者が将来的に社会復帰されることを見越して、日常生活のサポートをしています。この仕事に興味を持ったのは大学在学時、精神科病院での実習を経験した時です。患者さんの退院後の生活の場として、ホームや施設への入所するケースがあると知り、その方たちにどのような支援が必要なのか知りたかったです。実際に支援スタッフとして関わらせてもらって学んだことは、コミュニケーションの大切さです。「みずさわ」には、会話でのコミュニケーションが難しい方が多く、会話できたとしても伝えたいことをそのまま伝えられない場合があります。常に相手の表情を見ながら、いつもと違う様子がないかどうか気を配り、ご利用者が本当に訴えたいことに気づけるように努力しています。「みずさわ」では、外部からの委託でデリバリーのお箸などをセットする仕事を請け負って、自立のための支援のひとつにしています。真剣に仕事に向き合う姿をみると、私もうれしくなります。今後はお一人おひとりの特性や状態の違いへの理解を深めて、長期的な目で自立の助けになりたいと思います。

千野 沙織 Chino Saori

障がい者支援施設 みずさわ 勤務  
2009年入職 高崎健康福祉大学 健康福祉学部卒



9:00 > 11:00 > 14:00 > 16:00 > 17:00 > 18:00  
 デイサービスの送迎 電話での相談に対応 施設の見学対応 アセスメント 記録入力 退社

送迎の時間はご利用者の様子がいいこと、困っていることを聞く大事な時間です。

ご利用者の家族の方や、施設に興味のある方からいろいろな問い合わせがあります。

施設を利用するにあたって、身体状況やご利用者の想いをアセスメントしています。介護職員だった経験を活かし、ご利用者の想いに寄り添った支援ができるよう調整をしています。



地域との交流をもっと活性化したい。

「神楽坂」は1階がカフェで、3階には多目的スペースがあり、地域の方が訪れてお茶をしたり、ヨガ教室をしたりしています。施設と地域を結ぶのも私の役目。ご利用者と地域の方が一緒に映画を楽しむ「神楽坂シアター」など、いろいろなイベントを企画しています。



家族の方からも頼られる存在に。

ご利用者の家族は、毎日施設のスタッフと顔を合わせるわけではないので、いろいろ心配している場合があります。家族の方にとっては、私が施設の相談窓口です。気になることがあればなんでも気軽に相談してもらって、不安や疑問を解消しています。

WORK STORY

WORK INTRODUCTION  
 相談員

「誰のために働いているのか」を原点に、施設ができることを摸索する。

私は現場スタッフを経て、現在は相談員の仕事をしています。聞き慣れない仕事かもしれませんが、施設全体に目を行き届かせて、ご利用者とその家族、介護スタッフのバランスをとる役目です。主にはご利用者側からの要望に対して、施設としてどんな対応ができるかを現場スタッフの意見を聞きながら考え、対応しています。

相談員は、時には緊急的な状況に柔軟な判断を迫られることがあります。私の経験では、ショートステイの最終日直前に延泊の相談がありました。翌日からの予定も決まっていたので、お部屋も空いていなかったのですが、やむを得ぬ事情があるとのこと。ちょうど特別養護老人ホームに空き部屋があったので、そちらを使っていただくことで解決できました。必ずしもすべての要望にお応えできるわけではありませんし、スタッフに余分な負担をかける場合もあります。しかし「誰のために働いているのか」という原点に立ち、少しでもご利用者の力になれるように試行錯誤しています。

また、今働いている「高齢者福祉施設 神楽坂」は、地域との交流が盛んです。地域と施設を結ぶ橋渡し役も自分の役目だと考えています。

魚川 純平 Uokawa Jumpei

高齢者福祉施設 神楽坂 勤務  
 2013年入社 日本社会事業大学 社会福祉学部福祉援助学科卒



保育士

子どもの時からの夢をかなえて先生に。園児が自分で考える指導で成長をうながす。

私は自分が幼稚園児だった時に大好きだった先生に憧れて、保育士を目指しました。就職活動中はいろいろな園を見学しましたが、先生同士の仲が良さそうに感じられたので、三篠会への就職を決めました。その時に感じた印象は間違いがなくて、働き始めてから人間関係で悩んだことは一度もありません。困ったときは声をかけて助け合い、先輩になんでも相談できるので、仕事のことに集中することができます。

現在は4歳児を担当しています。4歳児はグループを作るようになり、仲間はずれになる子が出てきます。そんな時はすぐに注意せず、「もし自分が同じことをされたらどう思う?」と、自分で考える時間を作るようにしています。そうすると、次からは自分たちから声をかけて一緒に遊んでくれるようになるんです。そんな子どもたちの成長を見られることが、保育士の一番のやりがいです。

入社4年目となり、自分のことだけでなく後輩の様子を気にする余裕が出てきました。私が先生に憧れたように、子どもたちから目標とされるような先生になりたいと思って努力しています。

鎌田 優美 Kamata Yumi

幸いづみ保育園 勤務  
 2015年入社 聖ヶ丘教育教育福祉専門学校 幼稚園教諭保育士養成学校卒



WORK STORY



幼児リーダーとしてみんなのまとめ役に。

初めて幼児リーダーになり、3~5歳児の担任のまとめ役をしています。私が気をつけていることは、先生たちが悩みを一人で抱えて孤立しないようにすることです。ついつい自分一人で解決しようとしてしまうので、一緒に話し合う時間を作り、もし問題があればみんなで解決しています。



子ども一人ひとりと真剣に向き合いたい。

私が憧れた先生は、子どもと正面から向き合っていました。悪いことをした時は、まっすぐに目を見て怒られましたし、良いところをたくさん見つけて、ほめてくれました。それが今でも心に残っています。私も子ども一人ひとりと真剣に向き合う先生でありたいと思います。

8:30 > 10:00 > 12:00 > 14:30 > 15:30 > 17:00 > 17:30  
 ミーティング クリスマスリース制作 お昼ごはん おひるね お帰りの会 お迎え対応 退勤

リボン結びに挑戦!「できたー!」と自分で初めてリボン結びができたことを、保護者の方に伝えている姿にこちらも嬉しくなります。

眠れない子に絵本を読んであげることも。

給食が食べられるようになったり、英語教室での様子を伝えたり、保護者の方と子どもたちの成長を喜び合っています。

# サイドストーリー

オンとオフのメリハリがつけられる三篠会だからプライベートの自分も輝かすことができます。



サッカー  
×  
生活支援員

得意な趣味のサッカーは親交を深めるきっかけに。

01

大学生まで続けていたサッカーを、今は友達を集めてフットサルとして、空き時間に体を動かしてリフレッシュしています。三篠会に就職したのも、様々なサークルがあることに惹かれたからです。他部署との交流や三篠会全体で親交を深めていくために、気分転換の場を自分から発信して作っていきたいと思います。

安田 理沙 Yasuda Risa

白木の郷 勤務  
2017年入社 広島文教女子大学 人間科学部 人間福祉学科卒

観客を神話の時代へ誘う  
伝統芸能。  
三篠会への入社も神楽が縁に。

02

小学生の時に地域の神楽団に入り、そのまま今も続けています。私はお囃子の笛を担当しており、年間60公演をこなしています。実は三篠会に就職したのも神楽が縁です。大学の時に「ゆたか園」に呼んでいただき、職員の方の様子を見て「ここで働いてみたいな」と思ったのがきっかけでした。

升田 美香 Masuda Mika

特別養護老人ホーム 甲田 勤務  
2013年入社 広島文教女子大学 人間科学部卒



神楽  
×  
管理栄養士

アルティメット競技で  
世界を目指す実力者。

03

ボールの代わりにフリスビーを使う競技「アルティメット」をやっています。日本ではマイナーですが私は中学生の時から続けており、現在所属している社会人チームでは、世界大会にも出場しました。障害者スポーツにもフリスビーを使う競技があるので、いつかご利用の方と一緒に楽しみたいです。

宮岡 春菜 Miyaoka Haruna

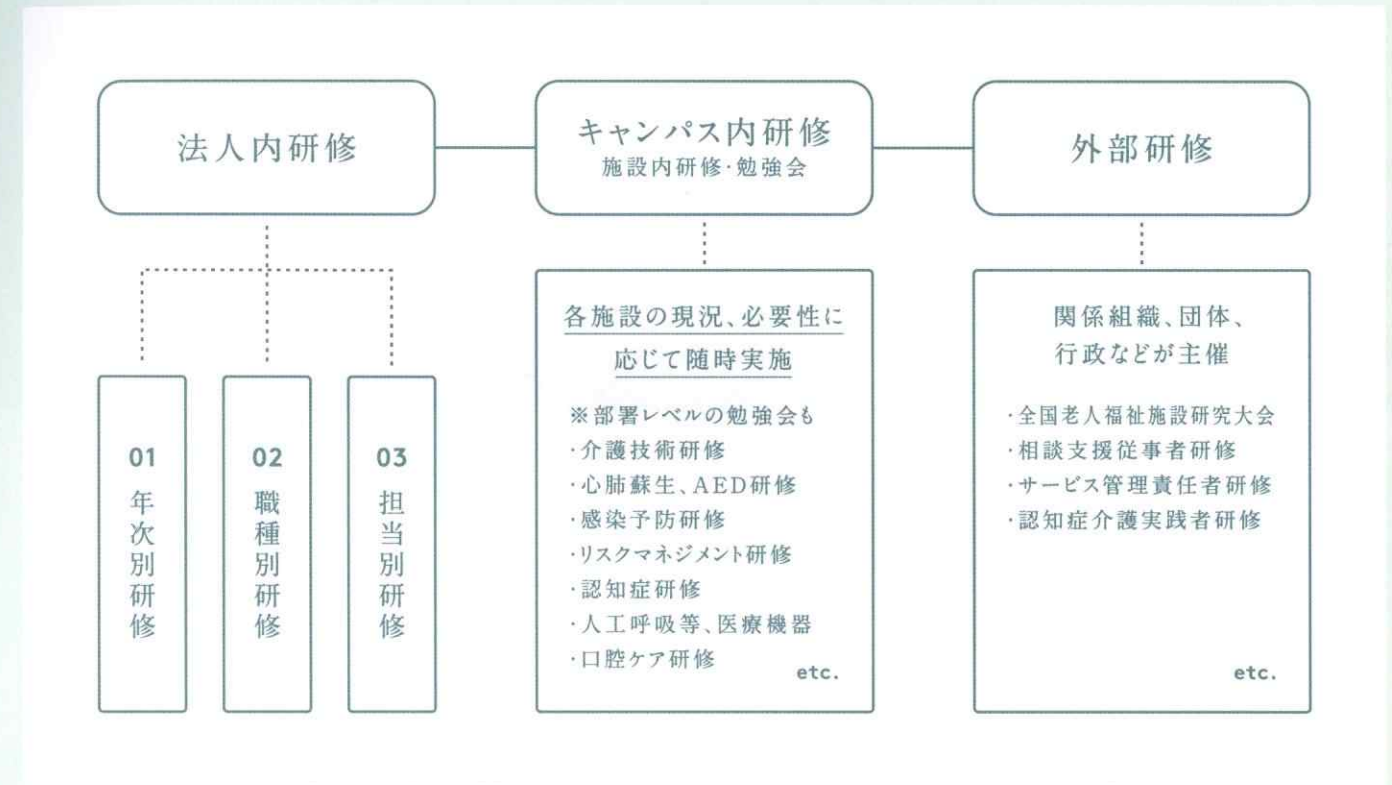
障害者支援施設みずさわ 勤務  
2018年入社 日本大学 文理学部 社会福祉学科卒



アルティメット  
×  
支援員

# 研修制度紹介

三篠会を支えるのはひとり一人の職員。全員がスキルや能力を最大限に発揮できるように、充実した研修制度があります。



## 新卒新任職員研修

「学生から社会人への切り替え」というテーマで実施しています。法人設立から現在に至るまでの歴史の中で、今も変わらず大切にしている考えや想いを理解することや、グループワークの中で、チームワークの重要性やコミュニケーションスキル、ご利用者の視点に立った考え方などを学ぶことを目的としています。社会人になる前のステップとして位置づけられ、同期職員のネットワーク作りとしての役割も果たしています。



## PAMA新任職員研修

「PAMA」とは「Position And Motion Assisit」の略で、法人が推奨するノーリフティングケアの知識と技術を学ぶ研修を各所属ブロックごとで実施しています。移乗機器等の福祉機器の活用に関するエキスパートを育成し、「ご利用者へのより質の高いケアを提供する」と同時に「労働環境の改善を図りスタッフの健康を守ること」を目指しています。



## フォローアップ研修

入社2～4年目の職員を対象とし、「価値観とコンセンサス」というテーマで実施しています。宿泊をともなう研修で、グループワークの中で、法人内の他施設の職員、いわば違う価値観を持った者同士が、課題達成のためにコンセンサスを得るためのプロセスを体験する内容となっています。また、法人内の施設見学も実施しており、高齢者・障害者施設など、所属している施設とは別分野の施設を見学することで法人内の事業所を知ることも目的としています。



## ステップアップ研修

入社5～7年目のケアスタッフを対象とし、「視野を広げる」をテーマに法人内の他施設への体験実習を実施します。実習に行くだけでなく、自らが実習指導役も担うことで、あらためて日々の業務をふりかえる機会と位置づけています。普段何気なく行っている当たり前の仕事が、本当に正しいことなのか、日々の仕事の本質について見つめ、これからの働きかた(キャリア)について考えていくことも目的としています。



# キャリアプラン

荒井 桜子

Arai Sakurako

重症児・者福祉医療施設  
原 勤務  
2006年入職  
広島文教女子大学  
人間科学部 人間福祉学科卒

介護福祉士  
資格取得



寺西 麻依子

Teranishi Maiko

養護老人ホーム 喜生園 勤務  
2006年入職  
吉備国際大学 社会福祉学部卒

社会福祉士  
資格取得



2006年4月 入職	2012年4月	2016年4月
ふれあいライフ原・ケアスタッフ	ふれあいライフ原・ユニットリーダー	ふれあいライフ原・ノーリフティングケア 姿勢・移乗マイスター

## 福祉業界の未来のために、 ノーリフティングケアの考え方を広めたい。

私は、入社後「ふれあいライフ原」でケアスタッフとして働き、一通りの仕事を覚えることができました。その後産休をいただき、同じ職場に復帰してユニットリーダーになりましたが、この時に転機が訪れました。きっかけは、小柄な女性スタッフから体重の重い方の移乗についての不安を相談されたこと。その不安は、私も妊娠中に感じていたことです。答えを模索している時に日本ノーリフト協会の研修に参加して、「探していた答えはこれだ!」と確信しました。ノーリフティングケアの考え方は、介護器具の使用を含む適切なケアにより、利用者の体と介護スタッフの体の両方を守ることです。正しい知識に基づくまさにプロのケアなのです。この考え方に対する法人の理解、後押しもあり、その後すぐにノーリフティングケアを「ふれあいライフ原」に導入してもらうことができました。それから4年後、今度はノーリフティング・マイスターに任命されました。「ふれあいライフ原」で働きながら、様々な施設で考え方と実践方法を教える立場を担っています。これからの福祉業界にノーリフティングケアは欠かせません。三篠会が業界の良いモデルとなるように、私も勉強を続けています。



マイスターとして研修講師をしています。人に伝えることの難しさを感じますが、まだまだ試行錯誤の連続です。

### 年に一度の面談と人事希望調査があります。

三篠会では、年に1度、職員全員を対象として個人面談と人事希望調査を実施しています。面談では、現在の悩みや要望、その他働くことに関する相談を受けています。タイミングや状況によりますが、面談と人事希望調査で出された要望は、翌年の人事異動の際に検討されます。

2006年4月 入職	2011年2月	2012年4月	2013年4月	2014年6月
喜生園・ケアスタッフ	産休・育休	喜生園・ケアスタッフ	地域包括支援センター・ 社会福祉士	喜生園・ケアスタッフ

## 育児と仕事を両立させながら、 取得した資格を生かして視野を広げる。

職場見学でデイサービスを訪れて福祉の仕事に興味を持ち、福祉学部のある大学を選んでこの道に進みました。三篠会に入職後は「喜生園」でケアスタッフに配属され、同時に社会福祉士の資格取得を目指して勉強を始めました。先輩たちの頼もしい応援もあり、入職2年目で無事合格。あの時はガッツポーズができました。ひとつめの転機が訪れたのは6年目、妊娠と出産です。妊娠がわかった時から、シフトを調整していただくなどのサポートをいただき、さらに1年2ヶ月の産休・育休で初めての育児に専念できました。復帰にあたっては、自宅から近く、顔見知りの職員も多い「喜生園」への復職が叶い、「ここなら仕事と育児を両立できる」と安心しました。ふたつめの転機は、社会福祉士の資格を生かせる「地域包括支援センター」への異動です。これまでと違い、地域の方の自宅へお伺いする仕事から学ぶことは多く、ずいぶん視野が広がったと思います。昨年度から再び「喜生園」の勤務となりましたが、以前よりもやりたいことが増えていました。今は「介護支援専門員(ケアマネージャー)」の資格取得を目指して勉強中です。



産休・育休はもちろん、復帰に向けての面談もあり、女性がキャリアを積みやすい職場だと思います。

### 三篠会は女性が長く活躍できる職場を目指しています。

三篠会は、女性が長く活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。2ヶ月の産休期間、1年の育休期間を設け、出産や育児を経た後も安心して仕事に復帰してもらえるように、復帰前の面談を実施し、スムーズな復職をサポートしています。現在も多くの女性職員が、子育てと仕事を両立しながら働いています。

■資格取得奨励制度について 三篠会では職員のスキルアップのための各種資格取得を奨励しています。資格取得のために

必要なスクーリングや受験料などの経費の助成を実施しています。また、スクーリングや試験は勤務日として行くことができます。

## 三篠会が支援する22の資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員(ケアマネージャー)、社会福祉会計簿記(初級)、パソコン検定1級、衛生管理者、危険物取扱者(乙種)、

看護師、准看護師、保健師、保育士、管理栄養士、栄養士、調理師、臨床心理士、公認心理師、簿記1級、簿記2級、社会福祉会計簿記(上級)、社会福祉会計簿記(中級)、手話通訳士

# プロジェクト

## ノーリフティングケアの推進

職員の腰痛予防とご利用者への苦痛や不安など負担軽減のため、人力だけではなくリフトやスライディングボードなどの福祉用具を使用して移乗支援を行う「持ち上げない介護」を推進しています。定期的に外部から講師を招いて研修を開催することで、職員一人ひとりが技術の習得を目指しています。研修を重ね、日々の実践の中でもノーリフティングケアを適切に行えるようになった職員は「マイスター」として各施設や学校に派遣され、持ち上げない介護技術を伝える立場になることもあります。



## DJ COBO



DJ COBOとは「脱ジャージ工房」の略で、職員の制服を見直す取り組みです。福祉施設の現場では、仕事の内容から、動きやすさが重視され、ジャージとポロシャツで働く職員が多いのが現状です。そんな中、DJ COBOでは働く見た目も重視し、働き方や福祉の仕事のイメージを変えることを目的として取り組まれています。三篠会では株式会社オンワード樫山と提携し、魅力ある制服を製作しています。

## ベストサービスアワード

サービスの質向上や業務改善など、今までの当たり前を変えるために取組んでいるサービスをレポートにまとめて発表する企画で、毎年開催しています。日々が淡々と繰り返す「作業」にならぬよう、常に目の前の状況に対し職員一人ひとりが専門職としてのフィルターを通じて課題に着目し、新たな取り組みに繋げる過程を大切にしたい想いのもと、毎年100を超えるレポートが提出される三篠会の一イベントとなっています。



# 施設インデックス

## 広島北ブロック

- 01 白木いづみこども園
- 02 三篠園
- 03 白木の郷
- 04 甲田
- 05 中山いづみこども園
- 06 向原/向原こぼと園
- 07 甲田いづみこども園

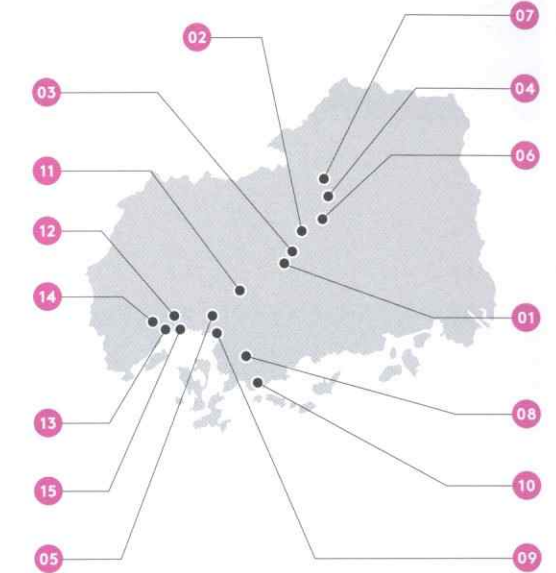
## 広島南ブロック

- 08 あすらや荘
- 09 ひうな荘
- 10 仁方
- 11 リアライブ高陽

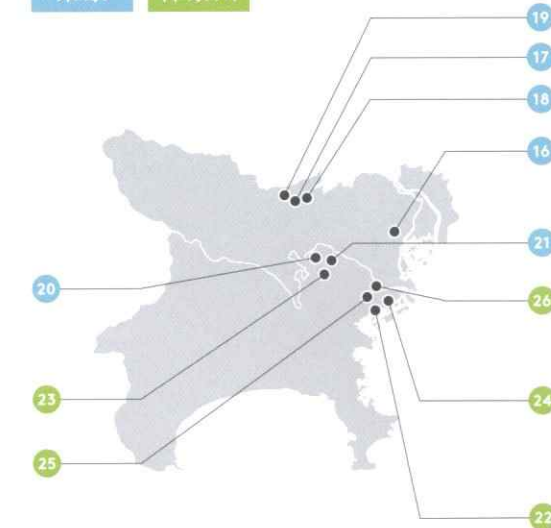
## 広島西ブロック

- 12 鈴が峰
- 13 救護院
- 14 ふれあいライフ原
- 15 楽々園kisui

## 広島



## 東京 神奈川



## 川崎北・東京ブロック

- 16 神楽坂
- 17 さくらコート青葉町
- 18 青葉さくら保育園
- 19 さくらテラス青葉町
- 20 ソレイユ川崎/それいゆ保育園
- 21 三田あすみの丘

## 川崎南・横浜ブロック

- 22 末吉いづみ保育園
- 23 みずさわ
- 24 京町いづみ保育園
- 25 南さいわい/幸いづみ保育園
- 26 こむかい
- 27 川崎ラシクル/川崎らしくる保育園

## 大阪



## 大阪ブロック

- 28 ベルデさかい
- 29 松屋茶論

# 高齢者施設・救護施設



三篠園



あすらや荘



ひうな荘



白木の郷



甲田



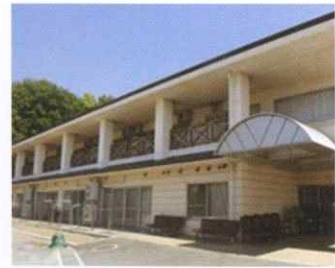
鈴が峰



仁方



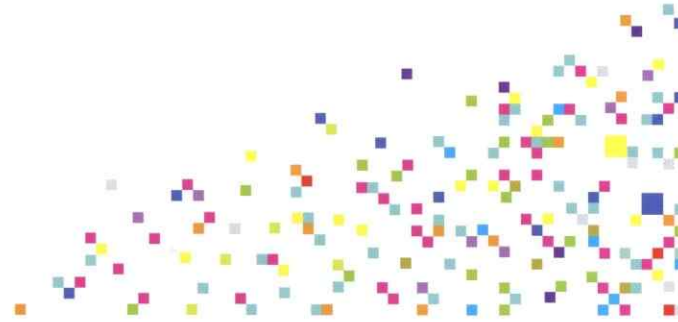
リアライブ高陽



救護院



楽々園kisui



ふれあいライフ原



三田あすみの丘



神楽坂



さくらコート青葉町



さくらテラス青葉町



南さいわい



こむかい



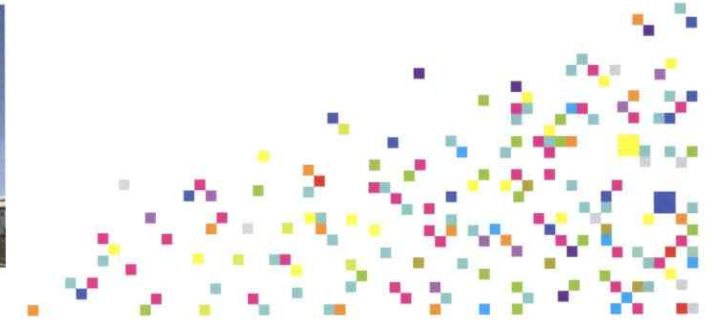
向原



松屋茶論



川崎ラシクル



02 三篠園

〒739-1301  
広島県広島市安佐北区白木町井原  
1244  
TEL.082-828-3330  
MAIL.misaesaen@misasakai.or.jp

08 あすらや荘

〒737-0161  
広島県呉市郷原町2380  
TEL.0823-77-0949  
MAIL.asurayaso@misasakai.or.jp

09 ひうな荘

〒734-0031  
広島県広島市南区日宇那町  
30-1  
TEL.082-256-1001  
MAIL.hiunaso@misasakai.or.jp

05 白木の郷

〒739-1412  
広島県広島市安佐北区白木町小越  
10230  
TEL.082-828-0123  
MAIL.shirakinosato@misasakai.or.jp

04 甲田

〒739-1103  
広島県安芸高田市甲田町下小原  
3363  
TEL.0826-45-7777  
MAIL.koda@misasakai.or.jp

12 鈴が峰

〒731-5122  
広島県広島市佐伯区五日市町首賀  
104-27  
TEL.082-943-8888  
MAIL.suzugamine@misasakai.or.jp

10 仁方

〒737-0157  
広島県呉市仁方町戸田4407  
TEL.0823-70-2222  
MAIL.nigata@misasakai.or.jp

11 リアライブ高陽

〒739-1754  
広島県広島市安佐北区真亀  
1-1-8  
TEL.082-843-3223  
MAIL.realivekoyo@misasakai.or.jp

15 救護院

〒731-5143  
広島県広島市佐伯区三宅  
2-1-2  
TEL.082-921-1122  
MAIL.kyugoin@misasakai.or.jp

15 楽々園kisui

〒731-5136  
広島県広島市楽々園5-15-22  
TEL.082-922-2555  
MAIL.rakurakuenkisui@misasakai.or.jp

14 ふれあいライフ原

〒738-0031  
広島県廿日市市原926-1  
TEL.0829-38-3333  
MAIL.hara@misasakai.or.jp

21 三田あすみの丘

〒214-0034  
神奈川県川崎市多摩区三田  
1-14-2  
TEL.044-935-5401  
MAIL.mitaasuminoaka@misasakai.or.jp

16 神楽坂

〒162-0805  
東京都新宿区矢来町104  
1-14-70  
TEL.03-3269-7555  
MAIL.kagurazaka@misasakai.or.jp

17 さくらコート青葉町

〒189-0002  
東京都東村山市青葉町  
1-7-70  
TEL.042-390-1170  
MAIL.sakuracourtaobacho@misasakai.or.jp

19 さくらテラス青葉町

〒189-0002  
東京都東村山市青葉町1-7-72  
TEL.042-399-8040  
MAIL.sakuraterraceaobacho@misasakai.or.jp

25 南さいわい

〒212-0016  
神奈川県川崎市幸区南幸町  
3-149-3  
TEL.044-542-3695  
MAIL.minaisaiwai@misasakai.or.jp

26 こむかい

〒212-0002  
神奈川県川崎市幸区小向仲野町  
1-3  
TEL.044-540-0170  
MAIL.komukai@misasakai.or.jp

06 向原

〒739-1201  
広島県安芸高田市向原町坂  
350  
TEL.0826-46-7022  
MAIL.mukaihara@misasakai.or.jp

29 松屋茶論

〒590-0902  
大阪府堺市堺区松屋大和川通  
1-13-1  
TEL.072-227-8220  
MAIL.matsuyusalon@misasakai.or.jp

27 川崎ラシクル

〒210-0024  
神奈川県川崎市川崎区日進町  
5-1  
TEL.044-589-3880  
MAIL.kawasakiashikuru@misasakai.or.jp



# 障害・保育施設



白木の郷



鈴が峰



仁方



ソレイユ川崎



ふれあいライフ原



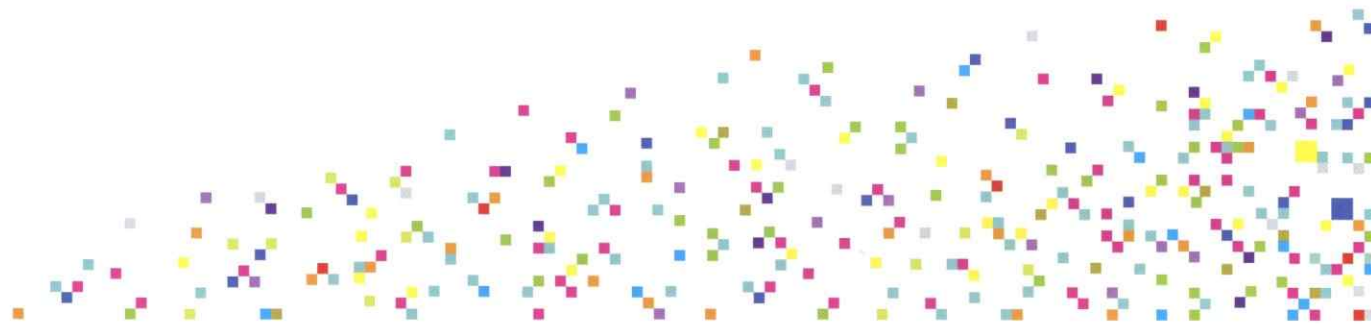
みずさわ



ベルデさかい



川崎ラシクル



03 白木の郷

〒739-1412  
広島県広島市安佐北区白木町  
小越10230  
TEL.082-828-0123  
MAIL.shirakinosato@misasakai.or.jp

12 鈴が峰

〒731-5122  
広島県広島市佐伯区五日市町  
菅賀104-27  
TEL.082-943-8888  
MAIL.suzugamine@misasakai.or.jp

10 仁方

〒737-0157  
広島県呉市仁方町戸田4407  
TEL.0823-70-2222  
MAIL.nigata@misasakai.or.jp

20 ソレイユ川崎

〒215-0001  
神奈川県川崎市麻生区祖山  
1203  
TEL.044-959-3003  
MAIL.soleilkawasaki@misasakai.or.jp

14 ふれあいライフ原

〒738-0031  
広島県廿日市市原926-1  
TEL.0829-38-3333  
MAIL.hara@misasakai.or.jp

23 みずさわ

〒216-0012  
神奈川県川崎市宮前区水沢  
3-6-50  
TEL.044-978-3238  
MAIL.mizusawa@misasakai.or.jp

26 ベルデさかい

〒590-0808  
大阪府堺市堺区旭ヶ丘中町  
4-3-1  
TEL.072-275-8510  
MAIL.verdesakai@misasakai.or.jp

27 川崎ラシクル

〒210-0024  
神奈川県川崎市川崎区日進町  
5-1  
TEL.044-589-3880  
MAIL.kawasakirashikuru@misasakai.or.jp



白木いづみこども園



中山いづみこども園



末吉いづみ保育園



京町いづみ保育園



青葉さくら保育園



向原こぼと園



soleilゆ保育園



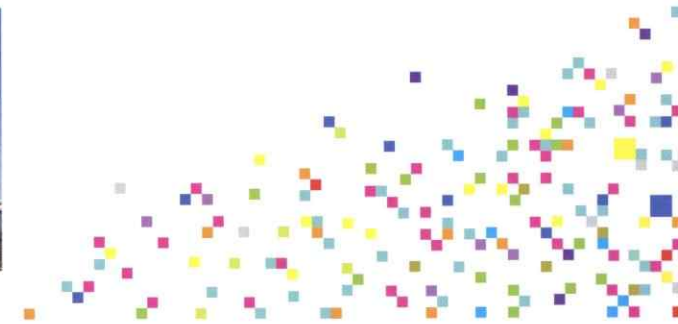
幸いづみ保育園



甲田いづみこども園



川崎らしくる保育園



01 白木いづみこども園

〒739-1412  
広島県広島市安佐北区白木町  
小越17-8  
TEL.082-828-0473  
MAIL.izumi@misasakai.or.jp

05 中山いづみこども園

〒732-0024  
広島県広島市東区中山1-5-36  
TEL.082-289-8800  
MAIL.nakayamaizumi@misasakai.or.jp

22 末吉いづみ保育園

〒230-0012  
神奈川県横浜市鶴見区下末吉  
3-6-2  
TEL.045-570-5125  
MAIL.sueyoshiizumi@misasakai.or.jp

24 京町いづみ保育園

〒210-0848  
神奈川県川崎市川崎区京町  
3-26-1  
TEL.044-322-3811  
MAIL.kyomachiizumi@misasakai.or.jp

10 青葉さくら保育園

〒189-0002  
東京都東村山市青葉町1-7-68  
TEL.042-390-1190  
MAIL.aobasakura@misasakai.or.jp

06 向原こぼと園

〒739-1201  
広島県安芸高田市向原町350  
TEL.0826-46-7022  
MAIL.mukaiharakobato@misasakai.or.jp

20 soleilゆ保育園

〒215-0001  
神奈川県川崎市麻生区祖山  
1203  
TEL.044-959-3003  
MAIL.soleilkawasaki@misasakai.or.jp

25 幸いづみ保育園

〒212-0016  
神奈川県川崎市幸区幸町  
3-149-3 南さいわい5F  
TEL.044-542-5696  
MAIL.saiwaiizumi@misasakai.or.jp

07 甲田いづみこども園

〒739-1101  
広島県安芸高田市甲田町高田原  
2500-3  
TEL.0826-45-7270  
MAIL.kodaizumi@misasakai.or.jp

27 川崎らしくる保育園

〒210-0024  
神奈川県川崎市川崎区日進町  
5-1  
TEL.044-589-6360  
MAIL.kawasakirashikuru@misasakai.or.jp

# 沿革

昭和27年4月1日	いづみ保育園の開設
昭和43年5月20日	社会福祉法人三篠会設立認可(昭和43年6月13日設立登記)設置する施設 いづみ保育園
昭和44年4月1日	養護老人ホーム三篠園の開設 白木町から経営移譲
昭和47年11月11日	特別養護老人ホーム三篠園の開設
昭和51年7月1日	養護老人ホームあすらや荘の開設(日本で初めての聴覚障害者専用の養護老人ホーム)
昭和52年11月10日	特別養護老人ホームあすらや荘の事業開始
平成2年11月1日	老人デイサービスセンター三篠園の事業開始
平成3年4月1日	三篠園ホームヘルプサービス派遣事業の事業開始
平成4年7月10日	特別養護老人ホームひうな荘の開設
平成4年9月1日	老人デイサービスセンターひうな荘の事業開始 ひうな荘老人ショートステイ事業の事業開始
平成4年11月1日	ひうな荘施設入浴サービス事業の事業開始
平成5年7月1日	在宅介護支援センターひうな荘の事業開始
平成5年10月1日	ひうな荘ホームヘルプサービス派遣事業の事業開始
平成5年11月10日	老人保健施設ひうな荘の事業開始
平成6年1月24日	老人デイサービスセンターあすらや荘の事業開始 あすらや荘老人ショートステイの事業開始
平成6年3月1日	老人保健施設ひうな荘デイケアの事業開始
平成7年11月1日	ひうな荘訪問入浴サービスの事業開始
平成8年4月1日	身体障害者療護施設白木の郷の開設 三篠園老人ショートステイの事業開始
平成8年5月1日	白木の郷身体障害者短期入所事業の事業開始
平成8年7月1日	在宅介護支援センター三篠園の事業開始 あすらや荘ホームヘルプサービスの事業開始
平成8年10月1日	身体障害者デイサービスセンター白木の郷の事業開始
平成9年4月1日	老人保健施設あすらや荘の事業開始 老人保健施設あすらや荘デイケア事業の事業開始
平成10年6月1日	在宅介護支援センターあすらや荘の事業開始
平成10年11月10日	認知症高齢者グループホームあすらや荘の事業開始
平成11年10月5日	居宅介護支援事業所三篠園事業の事業開始
平成11年10月13日	居宅介護支援事業所ひうな荘事業の事業開始
平成12年2月1日	特別養護老人ホーム甲田の開設、ケアハウス甲田の事業開始 在宅介護支援センター甲田の事業開始 甲田老人ショートステイ事業の事業開始
平成12年2月18日	居宅介護支援事業所甲田事業の事業開始
平成12年3月1日	老人デイサービスセンター甲田の事業開始
平成12年3月17日	老人保健施設白木の郷の事業開始 老人保健施設白木の郷デイケアの事業開始
平成12年4月1日	重症心身障害児施設鈴が峰の開設 鈴が峰心身障害児短期入所の事業開始 居宅介護支援事業所あすらや荘の事業開始
平成12年9月1日	身体障害者療護施設仁方の開設 仁方身体障害者短期入所事業の事業開始
平成12年10月1日	鈴が峰重症心身障害児通園の事業開始 身体障害者デイサービスセンター仁方の事業開始
平成13年6月1日	特別養護老人ホーム鈴が峰の事業開始、ケアハウス鈴が峰の事業開始 鈴が峰老人ショートステイ事業の事業開始
平成13年7月1日	居宅介護支援事業所鈴が峰の事業開始
平成13年8月1日	老人デイサービスセンター鈴が峰の事業開始 鈴が峰ホームヘルプサービスの事業開始 社会福祉法人啓仁会との吸収合併契約締結 特別養護老人ホームゆたか園の経営を継承 老人デイサービスセンターゆたか園の経営を継承 ゆたか園老人ショートステイ事業、ゆたか園ホームヘルプサービス事業、ゆたか園居宅介護支援事業所の継承
平成13年10月1日	認知症高齢者グループホーム甲田の事業開始
平成13年10月4日	社会福祉法人啓仁会との合併登記完了
平成14年4月1日	仁方老人デイサービスの事業開始
平成16年4月1日	教護施設教護院及び養護老人ホーム養生園を広島市から移管 中山いづみ保育園の開設
平成16年5月1日	甲田ホームヘルプサービスの事業開始
平成16年11月1日	認知症高齢者グループホーム鈴が峰の事業開始
平成17年1月1日	老人デイサービスセンター仁方の事業開始
平成17年4月1日	重症心身障害児施設ソレイユ川崎の開設
平成17年5月1日	ソレイユ川崎心身障害児短期入所の事業開始

平成17年10月1日	ソレイユ川崎重症心身障害児(者)通園の事業開始
平成18年3月1日	老人保健施設原の開設、老人保健施設原デイケアの事業開始
平成18年4月1日	末吉いづみ保育園の開設 在宅介護支援センター三篠園を広島市白木地域包括支援センターに移行 在宅介護支援センターあすらや荘を呉市東部地域包括支援センターに移行 在宅介護支援センターひうな荘を広島市大州地域包括支援センターに移行 広島市五日市地域包括支援センターの開設 広島市五日市南地域包括支援センターの開設
平成18年9月1日	知的障害者入所授産施設広島県大野寮、知的障害者短期入所事業 知的障害者通所授産事業の指定管理受託
平成18年10月1日	養生園ホームヘルプサービス事業の事業開始
平成19年3月1日	ソレイユ川崎相談支援事業の事業開始
平成19年4月1日	障がい者支援施設みずさわの開設 みずさわ障がい者通所事業の事業開始 重症心身障害児施設原の事業開始 原心身障害児(者)短期入所の事業開始
平成20年10月1日	特別養護老人ホーム原の事業開始 老人短期入所生活介護事業原の事業開始 原居宅介護支援事業所の開設
平成21年4月1日	京町保育園を川崎市から移管し、京町いづみ保育園として開設 介護老人保健施設三田あすみの丘を川崎市から移管 障害者支援施設白木の郷(旧身体障害者療護施設)が新体系へ移行
平成22年7月1日	認知症高齢者グループホーム白木の郷の開設
平成23年2月1日	特別養護老人ホーム神楽坂の開設 老人短期入所生活介護事業神楽坂の事業開始 認知症高齢者グループホーム神楽坂の事業開始
平成23年4月1日	障害者支援施設原、障害者ケアホーム原(旧知的障害者授産施設広島県立大野寮)が原へ移転し、新体系へ移行 障害者短期入所事業原の事業開始、就労継続支援B型原の事業開始 老人デイサービスセンター神楽坂の事業開始 老人居宅介護支援事業所神楽坂の事業開始
平成23年9月1日	特別養護老人ホーム原 ユニット型・従来型別指定
平成24年3月1日	障害者相談支援事業鈴が峰の事業開始
平成24年4月1日	就労継続支援事業A型原、障害者相談支援事業原の事業開始 障害者相談支援事業仁方の事業開始 障害者支援施設仁方(旧身体障害者療護施設)が新体系へ移行
平成24年5月1日	障害者相談支援事業白木の郷の事業開始
平成24年6月1日	障害者相談支援事業みずさわの事業開始
平成24年7月1日	養護老人ホームさくらコート青葉町開設(内50人視覚障害者専用) 老人デイサービスセンターの事業開始 さくらコート青葉町ホームヘルプサービスの事業開始
平成24年8月1日	青葉さくら保育園の開設
平成24年12月1日	就労継続支援事業A型白木の郷の事業開始
平成25年3月1日	養護老人ホームさくらコート青葉町診療所の事業開始
平成25年5月1日	特別養護老人ホーム南さいわいの開設
平成25年5月1日	地域密着型特別養護老人ホームこむかいの開設
平成25年7月1日	居宅介護支援事業所南さいわいの事業開始
平成25年8月1日	老人短期入所生活介護事業南さいわいの事業開始 老人デイサービスセンター南さいわいの事業開始 老人短期入所生活介護事業こむかいの事業開始
平成26年3月1日	認知症高齢者グループホーム向原の開設
平成26年4月1日	向原こぼと園の事業開始 地域密着型特別養護老人ホーム仁方の事業開始
平成27年4月1日	特別養護老人ホーム松屋茶論の開設
平成27年5月1日	障害者相談支援事業ひうな荘の事業開始 松屋茶論ケアプラザセンター事業開始
平成27年6月1日	老人短期入所生活介護事業 松屋茶論の事業開始
平成27年7月1日	事業内保育所それいゆ保育園の事業開始
平成28年4月1日	幸いづみ保育園の設置経営
平成29年4月1日	いづみ保育園が幼保連携型認定こども園の認定を受け、白木いづみこども園として事業開始
平成30年3月1日	特別養護老人ホームさくらテラス青葉町の設置経営
平成30年4月1日	ゆたか園が移転し、リアライヴ高陽に名称変更 サービス付き高齢者向け住宅リアライヴ高陽の設置経営 中山いづみ保育園が保育所型認定こども園の認定を受け、中山いづみこども園として事業開始 向原こぼと園が幼保連携型認定こども園の認定を受け事業開始
平成30年11月1日	居宅介護支援事業さくらテラス青葉町事業開始 老人短期入所生活介護事業さくらテラス青葉町事業開始
平成31年4月1日	甲田いづみこども園を開設 社会福祉法人広島光明学園から高陽荘の経営移管を受け、経営を継承
令和2年4月1日	なかやまっこ放課後児童クラブの開設
令和3年3月1日	障害者入所施設川崎ラシクル開設
令和3年4月1日	特別養護老人ホーム川崎ラシクル、看護小規模多機能型居宅介護川崎ラシクル、定期巡回・随時対応型訪問介護看護川崎ラシクル、南部在宅支援室、川崎らしくる保育園の開設 養護老人ホーム養生園が移転し楽々園kisuiに名称変更 楽々園kisuiに特別養護老人ホームと大規模型デイサービスを開設

# 理事長挨拶



地域、社会、隣人、そして自分自身のために日々のサービスを築く。

社会福祉法人三篠会は現在では幅広い地域と分野で福祉事業を展開する法人となっています。しかし、こうした事業規模や広域性として見える部分は、いわば法人の表面であり、その本質は、決してノウハウのコピーなどではなく、地域にとって、私どもにとって、新しい価値へのチャレンジの積み上げでありました。特に、見えざるニーズへの気づきこそ、これまでの三篠会の「あゆみ」であり、今後の指針とも言えます。

こうした「あゆみ」を続けるためには、数多くの仲間との日々の積み重ねが必要です。しかし、異なる人生を歩んできた者同士が、同じ時間と同じ空間の中で営みを共有するわけですから決して順調なことばかりではありません。そのような中でも、出会った方々の人生や背景に触れながら、ともに未来を描くところに、私どもの今日の「実践」

があるものと考えています。もちろん、こうした「あゆみ」や「実践」には失敗と反省もついています。また、自らは問題と感じていない部分にも反省すべき点が存在することもあります。しかし、それでも今日という日を迎えることができているならば、自らの認識に関わらず、そこに多くの関係者のご理解や支えがあってこそものと言えます。こうした「こころ」は福祉事業に従事する私どものいわば原動力とも言えるものでもあります。こうした「あゆみ」「実践」「こころ」を共有しながら、法人や施設のためではなく、地域と社会、隣人、多くのつながり、そして、最終的には自分自身のために日々のサービスを築いていける人材が集うことを心より念じるとともに、私どもがその器となるよう努力してまいります。

理事長 酒井 亮介

